

# 国道56号 宇和島道路 (津島高田IC～宇和島南IC) 供用開始

— 大洲河川国道事務所 —

大洲河川国道事務所が整備を進めている「国道56号 宇和島道路」のうち、津島高田IC～宇和島南IC（延長約7.8km）が暫定2車線で完成し、平成22年3月27日（土）午後5時より供用開始しました。

当日は、穏やかな春の日差しが降り注ぐなか、午後1時より供用式典が大洲河川国道事務所、及び宇和島市の主催で宇和島市立岩松公民館において執り行われました。式典には加戸愛媛県知事をはじめ、地方選出の国会議員、宇和島市長、地元自治会長、及び工事関係者ら総勢約170名の出席をいただきました。始めに足立四国地方整備局長からの挨拶があり、来賓挨拶、石橋宇和島市長の挨拶、来賓紹介、祝電披露、工事経過報告の後、テープカット会場である津島高田ICに移動、テープカット、及びくす玉開放が行われました。この後、牛鬼の演舞が披露され、パレードにて供用式典を終えました。



足立四国地方整備局長のあいさつ



テープカット



牛鬼演舞

本区間の供用により、宇和島南IC部（寄松交差点）の交通渋滞が緩和され、既供用区間（6.2km）と共に宇和島市をはじめとする愛媛県南予地域の発展に寄与することが期待されます。今後は新直轄区間（宇和島北IC～西予宇和IC）の早期供用を目指すとともに、宇和島道路未供用区間（3.5km）の事業を推進してまいります。

# 「徳島阿波おどり空港」滑走路 2,500m 及び新ターミナル地域が供用開始

—小松島港湾・空港整備事務所—

小松島港湾・空港整備事務所が大阪航空局、中国四国防衛局と共同で整備を進めていた「徳島飛行場拡張整備事業(滑走路 2,500m化)」が完成し、空港の名称も「徳島阿波おどり空港」と親しみのあるものに一新され、4月8日に供用開始されました。

本事業は、東京路線を中心とする旅客需要への対応を図るとともに、国際チャーター便の就航を推進していくため、大型機が就航出来るよう、滑走路をこれまでの2,000mから2,500mへと海側に拡張したものです。また、エプロン、駐車場等のターミナル地域も海側に移転させており、住宅地から遠ざかることにより騒音が軽減され、周辺地域の環境の改善が図られることとなります。

供用開始に先立ち、4月3日に、国土交通省、県、地元関係者等約110人の出席により行われた完成式典においては、飯泉知事、広瀬松茂町長や松茂小学校の児童代表等によるテープカットが行なわれ、拡張事業の完成を祝いました。

供用開始後は、早速、大型機を使用したチャーター便として、4月17日には沖縄ツアー、5月には上海万博ツアーが予定されていると共に、10月からは、東京便に全日空が1日3往復就航することが公表されており、現在1日6往復運航している日本航空とダブルトラッキング化され、利便性の向上が図られます。

今後、「徳島阿波おどり空港」が多くの方々から愛され、地域経済の発展や広域観光の推進に役立つことを切に期待しております。



2,500m 化された滑走路



完成式典テープカット

## 平成21年度「手づくり郷土賞」認定証授与式の開催について

### － 企画部広域計画課 －

平成21年度「手づくり郷土賞」について、全国で44件の応募があり、四国地方整備局管内からは、『みなとオアシス交流広場』と、『むれ源平石あかりロード』の2件が、一般部門として選定されました。

「手づくり郷土賞」とは、地域の魅力や個性を創出している、良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘・評価し、「手づくり郷土賞」として表彰することにより、好事例を広く紹介し、個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が進むことを目指して、昭和61年度に創設された、平成21年度で24回目の開催となる国土交通大臣表彰です。

東京で行われた選定委員会において、『みなとオアシス交流広場』については、「住民参加の緑地整備、交流広場の整備等により、港の遊休空間、未利用空間を有効に活用して地域の活性化に寄与している。」と、『むれ源平石あかりロード』については、「牟礼固有の史跡と産業文化を結びつけた地域の地道な取組である。」と評価されました。

#### (1) 受賞案件



みなとオアシス交流広場（イベント時）



むれ源平石あかりロード（イベント時）

#### (2) 認定証授与式（記念撮影）



みなとオアシス交流広場（3/23 事務所）



むれ源平石あかりロード（3/18 高松市役所）

認定証授与式には、受賞者、地元市長他及び、四国地方整備局から、局長、小松島港湾・空港整備事務所長などが出席し、認定証及び記念品の授与を行いました。

出席者からは、受賞の喜び、今後の地域づくりへの抱負や、意気込みなどをお話いただきました。

# 建設機械の自動制御による施工現場の見学会開催

～仕上げは機械におまかせ！～

— 徳島河川国道事務所 —

平成22年2月23日（火）に、日和佐道路（徳島県阿南市福井町小野）にて、舗装工事における情報化施工（モータグレーダによるマシンコントロールを用いた上層路盤の敷均高自動制御）の、現場見学会を開催しました。

情報化施工とは、三次元データを活用した機械の自動制御や、GPSやトータルステーションといった計測機器を活用した新しい施工及び施工管理を行うものです。四国地方整備局では、建設プロセスにおいてICT（情報通信技術）を活用し、施工の効率化・高度化による生産性の向上・現場技術力強化を図ることを目的として、情報化施工の普及・促進に取り組んでおり、その一環として、本現場見学会を開催しました。

現場見学会には、国交省はもとより、徳島大学、徳島県内の自治体（県・市・町）、徳島県建設業協会、徳島県舗装協会の皆様の参加を頂き、91名の参加がありました。



**91名の参加がありました**



**グレーダの敷均し状況**



**機器の説明状況**

現場見学会では、実際の作業内容の説明の後、オペレーター体験も有り、参加者は、興味深そうに運転席内のモニターを見学しておりました。参加者からは、「非常に良いシステム」、「機器にかかる費用はいくらですか」などの意見や質問が聞かれました。

又、実際に施工を行った業者からは、

○オペレーターの熟練技術に頼らない施工が可能

○日当り施工量、仕上り精度の向上

○人員の省力化

○重機稼働時間の短縮による燃料消費量削減やCO<sub>2</sub>排出量削減

などの効果があったとの報告も有り、本見学会がこれからの情報化施工の普及・推進に繋がっていくものと期待しております。